

9 (2) 文法事項や言語の働きなどを理解して正確に書く

(2) 次の英文は、ある生徒が文書作成ソフトを使って、スピーチコンテスト (speech contest) についてスミス先生 (Mr. Smith) 宛てに書いた【メール文の下書きの一部】です。送信する前に友達に相談したところ、友達から【コメント】をもらいました。【コメント】にしたがって、下線部を書き直さない。

【メール文の下書きの一部】

Dear Mr. Smith,

How are you?

We have a speech contest next Friday.

The speech contest starts at 10:00.

You have to come to the speech contest.

【コメント】



この英文は、依頼する表現に修正したほうがよいと思う。

■学習指導要領における領域・内容
書くこと

ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて正確に書くことができるようにする。

内容 (1) 英語の特徴やきまりに関する事項

イ 符号 ウ 語、連語及び慣用表現 エ 文、文構造及び文法事項

(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

② 言語の働きに関する事項

イ 言語の働きの例 (オ) 相手の行動を促す

■正答及び正答率等

正答	正答率	誤答率	無答率
「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書いているもの (正答例) ・ Can you come to the speech contest? 「相手の行動を促す」という言語の働きを理解しているが、命令文を用いた表現となっているもの (please を文頭に用いているもの) (正答例) ・ Please come to the speech contest. 依頼する表現を書いているが、大文字・小文字の書き分け等に誤りがあるもの (正答例) ・ can you come to the speech contest?	25.2%	49.2%	25.6%

■主な誤答とその要因

主な誤答	要因
解答類型4までとは異なる誤りがあるもの (反応率40.4%) (例) ・ Let's go to the speech contest. (提案する表現を用いている) ・ Do you come to the speech contest? (依頼する表現以外の疑問文になっている) ・ Have you come to the speech contest? ・ You want to come to the speech contest.	依頼する表現以外の疑問文になっているなど、「相手の行動を促す」という言語の働きを理解して表現を使い分けることができていないと考えられる。または、「依頼する英文に書き直す」という状況を理解できていないと考えられる。

内容の系統と指導のポイント

小学校第5学年

ていねいに注文をしたり、値段をたずねたりすることができるようにする。

ふるさとメニューを注文しよう。(東京書籍第5学年)

- ① 登場人物がていねいに注文したり、値段をたずねたりする場面や世界の料理についての話を聞く。
- ② ピクチャーディクショナリーを使って注文したり、値段をたずね合ったり、メニューを考えたりする。
- ③ 歌やチャンツ、ピクチャーディクショナリーなどを使いながら、デザート、味など、食べ物、飲み物、数、に関する語句や表現に慣れ親しむ。
- ④ 日本各地の名物を決めて、ピクチャーディクショナリーを使って注文をしたり、会計し合った上で、「ふるさとメニュートレイ」と巻末絵カードを使ったりして、買い物をし合う。
- ⑤ 世界の食文化や、英語と日本語との違いについて考える。
- ⑥ 東北地方に住むカリン・ラフィットさんの映像を視聴する。
- ⑦ 複数の小文字の名前を聞いて書く。単語の始まりの音や終わりの音に慣れ親しむ。

〔話すこと（やり取り）〕 小学校学習指導要領 外国語

ア 基本的な表現を用いて指示、依頼をしたり、それらに応じたりすることができるようにする。

指導の際には、表現を教えるだけではなく、質問したり、依頼したりすることなどによって、他者に働きかけて相手の行動を促すことができることに気付かせることが重要である。また、相手の行動を促す際には、身振りや表情、ジェスチャーなどの非言語的要素の活用も重要であることを指導する。

中学校第2学年

コミュニケーションの目的や場面、状況に応じて、事実、自分の考えや気持ちを伝えたり、依頼したりする英文を書くことができるようにする。

Point

教科書に点在している表現がもつ言語の働きを整理する。

例：相手の行動を促す

- ・質問する
- ・依頼する
- ・招待する
- ・命令する

など

Point

コミュニケーションを行う目的や場面、状況を明確に設定する。



中学校外国語教材
Bridge (文部科学省)

Point

目的や場面、状況に応じて、生徒が表現を使い分ける活動を繰り返し行う。

〔書くこと〕 中学校学習指導要領 外国語

イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。

実際のコミュニケーションにおいて複数の表現を取り上げた上で、使用した表現を共有し、分類や比較を通して表現がもつ言語の働きを考えることが大切である。また、理解した言語の働きを別の文脈においても活用できるようにするために、異なる場面や状況を設定して、同じ言語の働きをもつ表現を使い分ける活動を繰り返し行うことが考えられる。

本設問の活用の手順

「言語の働きを理解し、場面や状況に応じて表現を使い分ける」ことができるようにするために、

1. コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を把握し、言語活動に取り組む

2. 分類や比較を通して表現の違いを理解する

3. 意味のある文脈の中で、言語の働きを理解し、表現を使い分ける

4. 学んだことを他の場面や状況で活用する